

令和元年度病害虫発生予報第10号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
きゅうり	べと病	並	並
	うどんこ病	やや少	やや少
	褐斑病	少	少
	菌核病	並	並
	灰色かび病	並	並
	ミナミキイロアザミウマ	少	やや少
	コナジラミ類	少	やや少
トマト	黄化葉巻病	並	並
	灰色かび病	並	やや多
	コナジラミ類	やや多	やや多
たまねぎ	べと病 (防除情報第19号)	やや多	多
	白色疫病	並	並
	ネギアザミウマ	並	並
いちご (本圃)	うどんこ病	並	並
	灰色かび病 (注意報第7号)	多	多
	アブラムシ類	並	やや多
	ハダニ類 (注意報第8号)	多	多
ブロッコリー	黒腐病	やや少	並
	べと病	並	並
	コナガ	並	並

【発生予報】 本文の ( ) 内は平年値

**きゅうり**

1. べと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は1.0%(1.4%)、発生圃場率は16.7%(24.8%)であった。

2. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は1.9%(3.6%)、発生圃場率は25.0%(44.3%)であった。

### 3. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.3%、発生圃場率10.5%)。

### 4. 菌核病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

### 5. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

### 6. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 1月前期の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は0.1%(0.8%)、発生圃場率は8.3%(19.5%)であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

### 7. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 1月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めない(寄生葉率0.6%、発生圃場率16.4%)。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

トマト
-----

### 1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.1%(0.3%)、発生圃場率は25.0%(22.2%)であった。

### 2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(12筆)の結果、果実での発生は認めなかった。なお、発

病葉率は1.2%（過去6か年平均0.2%）、発生圃場率は25.0%（同12.5%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 被害果等の発病部位や花卉は伝染源となるので、早期に取り除きハウス外へ持ち出す。

イ 換気を図り、ハウス内が多湿にならないような管理に努める。

ウ 予防的な防除に努める。防除にあたっては、薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

### 3. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査（12筆）の結果、寄生葉率は2.7%（過去9か年0.9%）、発生圃場率は41.7%（同29.5%）で、一部多発圃場が見られた。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫はウイルス病を媒介し多発すると防除が困難となるため、黄色粘着板等で発生状況を把握し、早期防除に努める。

イ 薬剤感受性が低下しやすいので、系統の異なる薬剤（平成31年長崎県病害虫防除基準P190～193「作用機構による分類（IRAC）」参照）をローテーション散布する。

ウ マルハナバチを使用するハウスでは、影響の少ない薬剤を使用する。

## たまねぎ

### 1. べと病

令和2年1月14日付け**病害虫発生予察防除情報第19号**による。

### 2. 白色疫病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査（16筆）の結果、発生を認めなかった（発生株率0.0%、発生圃場率0.8%）。

### 3. ネギアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査（16筆）の結果、寄生株率は12.3%（10.1%）、発生圃場率は50.0%（51.0%）であった。

## いちご

### 1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(26筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発病果率0.0%、発生圃場率4.2%)。

2. 灰色かび病

令和2年1月16日付け**病害虫発生予察注意報第7号**による。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 1月前期の巡回調査(26筆)の結果、寄生株率は2.2%(1.2%)、発生圃場率は15.4%(14.6%)で、一部多発圃場が見られた。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 特に花のがくに寄生しやすいので、発生を認めたら初期のうちに防除を行う。

イ 薬剤のかけむらがあると防除効果が低下するので、葉裏まで十分に散布する。

4. ハダニ類

令和2年1月16日付け**病害虫発生予察注意報第8号**による。

ブロッコリー

1. 黒腐病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 1月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.7%(4.3%)、発生圃場率は25.0%(23.5%)であった。

イ 向こう1か月の降水量は平年並または多い見込みであり、本病の発生に好適である。

2. ベと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.5%、発生圃場率2.1%)。

3. コナガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は1.7%(1.8%)、発生圃場率は16.7%(21.6%)であった。

【参考】

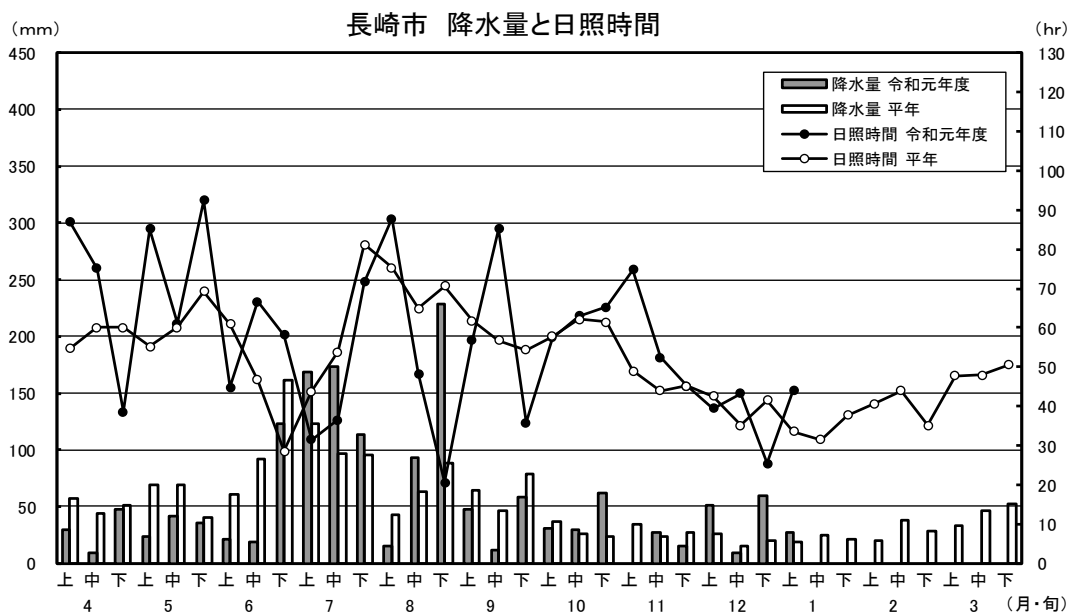
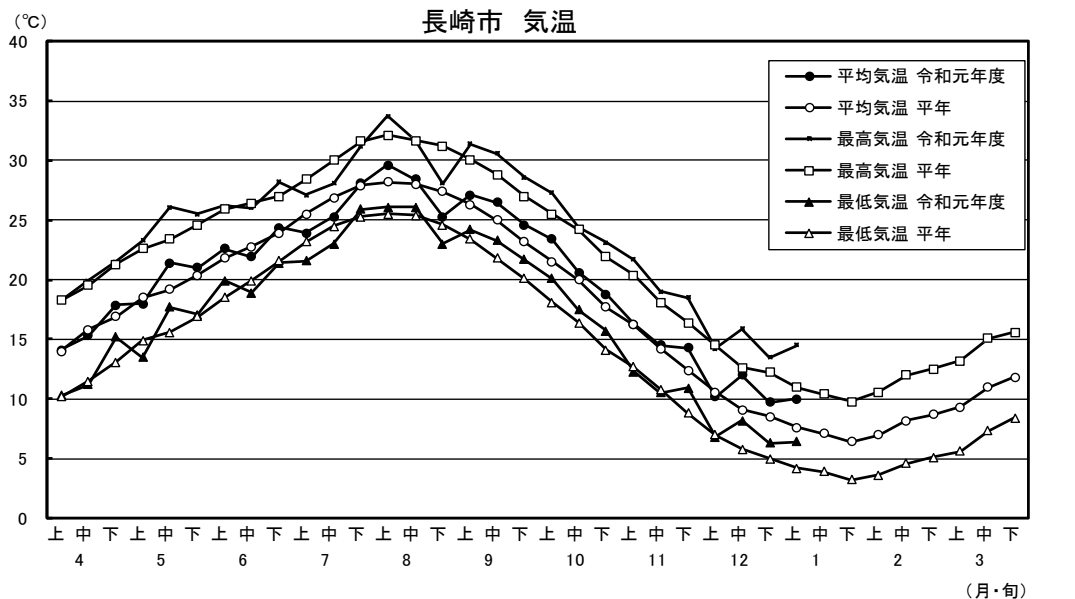
気象 (令和2年1月16日発表 1か月予報 福岡管区气象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	20	70
降水量	20	40	40
日照時間	30	40	30

※予報対象地域：九州北部地域

令和元年度の気象経過 (長崎地方气象台)



○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」アドレス：<http://www.jpnp.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

